

# 瀬戸大橋博覧会跡地利用について

— 日本地図でわかるイベント会場に —

平成12年1月

社団法人 **香川経済同友会**

# 瀬戸大橋博覧会跡地利用について

「日本地図でわかるイベント会場に」

## 提言の背景

平成 11 年 5 月の尾道・今治ルート（しまなみ海道）の開通により、本四三架橋時代を迎えた。昭和 63 年の瀬戸大橋開通、四国内の高速道路網の整備、鉄道的高速化等の交通インフラ整備により、関西圏と 2 時間で結ばれるようになり、四国四県を取り巻く環境は、国際化・情報化の進展、技術革新の進行、国内産業の空洞化懸念、少子・高齢化社会への進展と、様々な変化がおきている。そして、そのような変化のなかで地域間競争も激しさを増しつつある。地域間競争を生き抜くためにも、四国四県の交流・連携をさらに促進発展させ、それを前提に地域振興策を考える必要がある。四国地域最大の観光資源である三橋をメインに据えて、四県共同によるイベントなどを訪れ、四国を周遊する観光ルートを形成することで、四国地域全体の振興を大いに図ることができる。そして四国の持つ歴史や文化の独自性を発揮することにより、四国は大きな発展の可能性を秘めた地域として再確認され、ひいては香川県の地位向上につながることは間違いない。

児島・坂出ルートの瀬戸大橋は、三架橋のうちで唯一の鉄道併用橋であり、三架橋の中心地、南北軸の結節点という地理的メリットをもつ。四国全体の振興といった視点を前提に考え、瀬戸大橋のメリットを有効に活用することは香川の地域振興において、大きな効果が期待できる。

そのために香川県においては、数万人規模の観光客を集め、交流人口を増やすという大規模イベント会場の確保が必要とされている。このようななかで恒久的な利用案が示されていない瀬戸大橋博覧会跡地は、今回の多目的・多機能広場として、そして大規模イベント会場として利用するうえでは、やすらぎとにぎわいを同時に享受できるという利点を持った場所であり、まさに適地であるといえよう。今まさに、交流人口を飛躍的に拡大させるために、独自性及び参加性の高いシンボリックな文化イベント会場・憩いの場を創設し、同時に海と橋との景観も視野にいれて、人と自然の共生を目指した更なる観光振興を図る必要がある。

## 提言の要旨

### 【現状認識】

瀬戸大橋を渡って四国に入ってきた観光客が、最初に見る香川の光景は現在未整備の状態にある施設用地(以下、瀬戸大橋博覧会跡地と言う)である。

当瀬戸大橋博覧会跡地は、平成元年8月に瀬戸大橋博覧会後の利用計画について公募要綱を制定し、公募を開始、翌年3月にアコモ計画を入選案として決定した。しかしバブル崩壊の煽りを受け、すべての事業主体者が辞退するに至った。その後、県内各界関係者、学識経験者等がこの地の利用を検討すべく協議会を設け、5つのゾーンからなる土地利用計画は策定されたものの、具体的な導入施設は示されず、現在は施設用地として未整備の状態にある。香川の新しい玄関口である瀬戸大橋博覧会跡地をどう活用していくかは、香川の観光と地域振興を考える上で重要な課題である。

瀬戸大橋博覧会跡地は、多数の島々が散在する瀬戸内海と瀬戸大橋及び沙弥島の緑に囲まれた12.8haの平坦な土地で、JR宇多津駅とJR坂出駅から約6kmと交通アクセスにも恵まれ、また駐車場としてのスペースも十分確保できる。現在でも年間数回のイベント(農林水産フェスティバル等)が開催されているが、主催者側やイベントに参加する県民にとって、より利用しやすくなるように整備・演出し、更なる利用促進を図れば、大規模イベント会場として“香川の顔”となることも可能だろう。

香川県内のイベント等に対応可能な施設としては、大ホールを持つサンメッセ香川や着々と整備が進められているサンポート高松などの施設があげられるが、その施設等の利用状況や経済状況を考えると、新たな箱もの建設は、社会資本の過剰投資となる可能性が高い。瀬戸大橋博覧会跡地については、長期的な利用策が未定であり、新たな利用策が決定されるまでの間、有効に利用することが望まれる。もちろん将来的には、瀬戸大橋博覧会跡地の利用状況や経済状況を見ながら新しい利用方法の検討を継続していくが、現段階での必要な措置として以下の提言を行う。

## 【提 言 1】

### 多目的・多機能広場の創設を

瀬戸大橋博覧会跡地を色々なスポーツやイベントにも対応可能な多目的・多機能広場として利用し、そして県民憩いの広場となるように、芝生を張り巡らし、周辺に桜やオリーブ等の木々を植樹する。また、潮騒に耳を傾けながら、心地よい潮風に吹かれて海岸の散策や、夏には海水浴場として楽しむようなマリンスポットとする。具体的な措置としては、数万人規模の大規模イベントにも対応するため、トイレ・電源・上下水道・照明の公共設備の充実等、最低限の整備を行うことを提言する。

以上を実現することで、集客人数の増加及び当地におけるイベント開催回数増加等、更なる利用推進を図ることができる。

#### ○現状跡地の特性

- ① 場所の知名度が高い。(日本地図でも指し示すことができる)
- ② ロケーションに優れている。(瀬戸大橋と瀬戸内海)
- ③ 交通アクセスに優れている。
- ④ 駐車スペースの確保ができる。
- ⑤ 電線のない自由空間である。(12.8haの平坦な広場)
- ⑥ 会場設計の自由度、維持費の軽減が図れる。

## 【提 言 2】

### 風力発電・太陽光発電等エコ・エネルギー化に向けた調査研究を

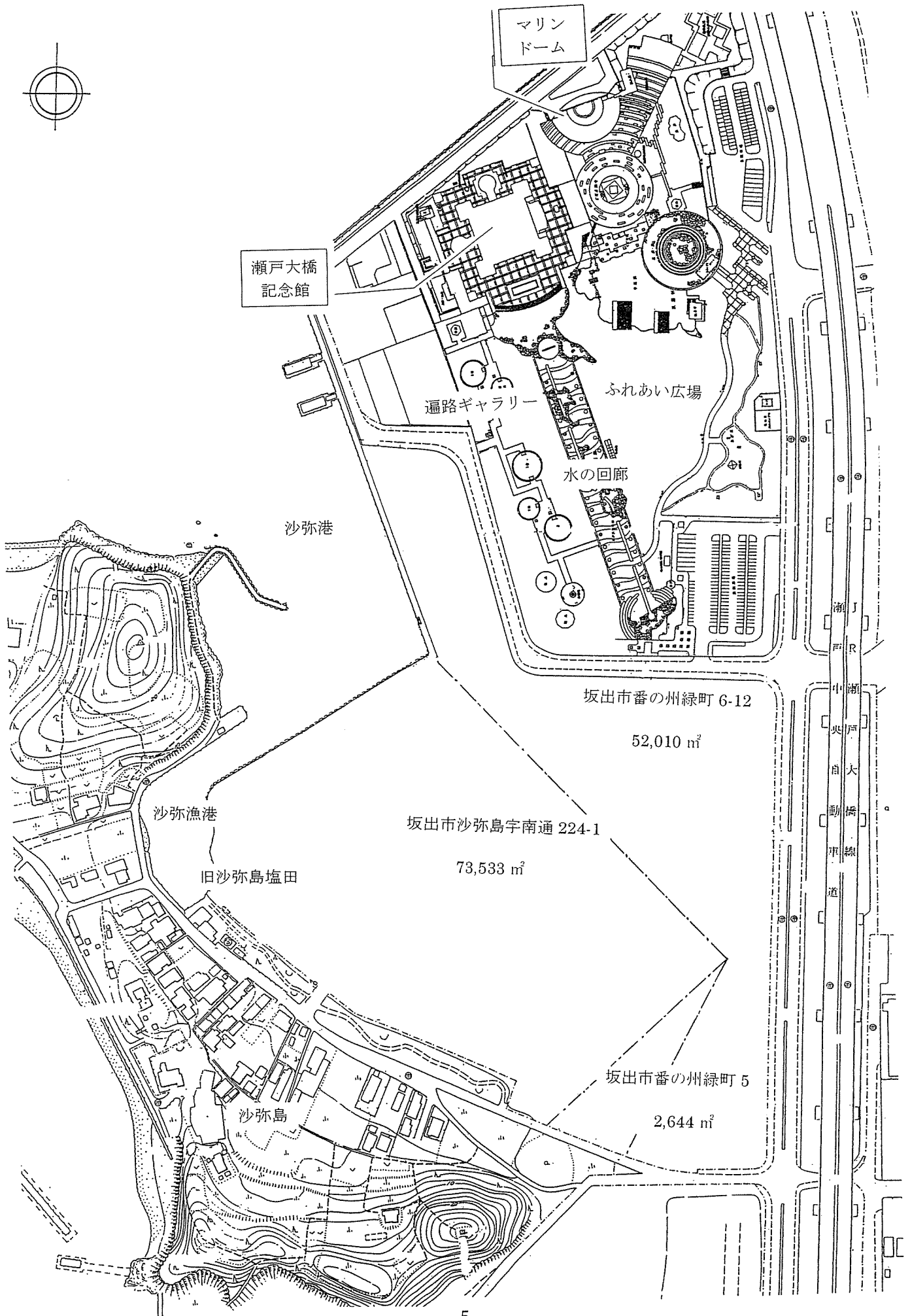
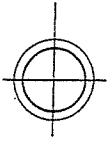
今、住民の環境に対するニーズは公害の防止や自然環境の保全、そして潤いや心の豊かさを求め、人と自然とのふれあいなど質の高い快適な環境づくりが求められている。そのような中でエネルギー消費を減らす循環型社会に向けての取組が大きな課題となってきた。クリーンなエネルギー環境はこれから先、必要な存在であり、エコ・エネルギー化の推進は、住民の環境問題に対する意識の高揚にもつながるだろう。また、瀬戸内海の美しい自然環境及び瀬戸大橋の雄大な景観美、これに風車の持つ優美な風景が加われば、海からも、陸からも望めるシンボリック効果として美しい香川の未来を予想させるであろう。以上により、瀬戸大橋博覧会跡地周辺への風力発電・太陽光発電等エコ・エネルギー化に向けての調査研究を提言する。

### 【提 言 3】

#### 瀬戸大橋公園駅の新設、坂出北インターのフル・インター化及び美しい港の整備を

21世紀に向けて、四国内の交通基盤の整備と地域振興のための地域活性化戦略とを一体的に捉え、これを相互密接に連携する必要がある。スポーツやコンサート等の大規模イベント会場として使用する場合に不特定多数の来訪者が訪れる。そのような将来の集客能力の増加に対応するために、大量公共交通機関としての鉄道の役割を考えて、瀬戸大橋公園駅の新設が望まれる。

また、乗用車やバスによる来訪者への対応として、現在、上り方向のみのハーフ・インターである高速道路 瀬戸中央自動車道 坂出北インターのフル・インター化の推進を図る。そして海陸を結ぶ交通の要衝として、また人々の生活交流の場としてマリンスポットの整備を提言する。



社団法人香川経済同友会 「地域振興委員会」 委員名簿

代表幹事	仲 山 省 三	四国旅客鉄道(株) 代表取締役専務
	真 鍋 康 彦	香川日産自動車(株) 取締役社長
委員 長	三 谷 安 治	丸善工業(株) 代表取締役社長
副委員長	大 坪 茂 樹	三菱電機(株)四国支社 支社長
常任幹事	林 幸 男	讃岐塩業(株) 代表取締役
	天 野 龍 郎	四電エンジニアリング(株) 代表取締役社長
	安 西 和 夫	三井物産(株)四国支店 支店長
	漆 原 和 義	(株)ウルシハラ 代表取締役社長
	隠 樹 史 朗	四国旅客鉄道(株) 常務取締役
	島 田 稔	(株)加ト吉 専務取締役管理統括本部長
	藤 澤 信 夫	四国化成工業(株) 代表取締役
	松 浦 玲 子	松浦工業(株) 代表取締役社長
	森 田 紘 一	(株)合田工務店 代表取締役社長
幹 事	池 田 弘 子	(株)人間科学研究所 代表取締役
	太 田 克 己	讃州製紙(株) 取締役社長
	木 村 信 行	四国機器(株) 取締役社長
	新 谷 禮 二	伊藤忠商事(株)四国支店 支店長
	平 尾 和 義	(株)たまや 代表取締役
	宮 寄 昭	(株)ミヤプロ 代表取締役
委 員	池 田 紀 博	三和シャッター工業(株) 四国支店長
	岡 義 憲	高松清掃(株) 代表取締役社長
	多 積 徹	西日本放送サービス(株) 常務取締役
	中 山 紘 壮	船入糧工(株) 代表取締役社長
	橋 本 康 男	(株)ハシセン 代表取締役社長
	浜 本 忠 義	丸虎食品工業(株) 代表取締役社長
	林 和 宏	林産業(株) 代表取締役社長
	三 浦 正 善	太陽合成(株) 代表取締役社長
	森 弘 成	日商岩井四国(株) 代表取締役社長
	森 口 幹 男	センコー産業(株) 代表取締役社長
	山 田 忠 将	日本電気(株)四国支社 支社長
協 力	進 藤 昌 忠	丸善工業(株) 取締役社長室長
事 務 局	森 真 佐 男	(社)香川経済同友会 専務常任幹事事務局長
	井 上 富 士 夫	(社)香川経済同友会 代表幹事秘書
	西 岡 仁	(社)香川経済同友会 調査課長
	元 山 良 子	(社)香川経済同友会 調査主事

## 瀬戸大橋博覧会跡地利用について

—日本地図でわかるイベント会場に—

---

平成 12 年 1 月 21 日 発行

発 行 社 香川経済同友会

専務常任幹事 森 真佐男  
事務局長

〒760-8691 高松市紺屋町1番地3

紺屋町清水ビル6階

TEL 087-821-8754

FAX 087-823-1160

E-mail [kkdoyu@orange.ocn.ne.jp](mailto:kkdoyu@orange.ocn.ne.jp)

---

(社)香川経済同友会提言 No.27